

# 「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岩手の会ニュース

第3号/2017・5・17

編集発行：ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会  
事務局：岩手県原爆被害者団体協議会 ☎019-622-4635



上：伊藤会長  
中：瀬川会長  
下：佐藤県交通労組委員長



## いまこそなくそう！核兵器 in 岩手 「ヒバクシャ国際署名岩手の会」キックオフ集会 —250人参加で盛り上がる—

「ヒバクシャ国際署名岩手の会」は14日、盛岡市大通の県産業会館大ホールで「キックオフ集会」を開催しました。250人が参加し、2020年までに50万人（県民のほぼ半数）をめざして署名を集めることを全員で確認しました。

伊藤宣夫代表が広島での体験を語り「署名成功へ力を貸してほしい」と挨拶。来賓として岩手県地域婦人団体協議会瀬川愛子会長が「願いは同じ、共に頑張りましょう」と挨拶しました。（県婦協では、昨年中に5,500筆超の署名を本部に提出しています）

集会に、●工藤勝子県議会議員 ●戸羽太陸前高田市長 ●佐藤達夫県老人クラブ連合会会長の3氏からメッセージが寄せられ参加者の皆さんに紹介されました。

スライドを使いながら記念スピーチをした林田光弘さん（25）＝ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー、長崎の被爆3世＝は、署名で対話しながら被爆者の体験を正確に伝えれば、核兵器の恐ろしさを理解してもらえると強調。「多くの署名を国連に届け、核兵器禁止が国民全体の声だと示そう」と呼びかけました。

トークセッションでは、林田さんと同世代の若者4人（・いわて生協組合員で生協主催のヒロシマ行動に参加した山中みちるさん・医療生協職員でヒロシマ行動に参加した武田彩さん・盛大3年大学生協学生委員で1年の時沖縄に行った丸谷光紀さん・小学校の先生でヒロシマ平和の旅に参加し心の変化を感じた那須川彩子さん）が ○原爆とか、核兵器廃絶とかへの関心は、何がきっかけだったか ○自分の思いを、知人とか知り合いにどんなふうに伝えていますか、どんな伝え方をすると関心が広がるでしょうか・・・二つのテーマで発言しました。

参加者全員が真剣な眼差しを向け、聴き、頷く姿も見受けられました。



### 《参加者の感想から》

- 被団協伊藤宣夫代表の挨拶は胸に響きました。ヒロシマで被爆し、九死に一生を得、90歳にならんとする今も、こうして力を込めて核兵器廃絶を訴えるその姿にうたれるものがありました。林田さんのスピーチは、学ぶことが一杯で25歳という若さ、そして自己紹介でどうしてこういう考えを持つに至ったかを話されたのもよかったです。そして、トークセッションはとても良かったです。若者の声を聞くことができ励まされました。こういう若者がいる姿を見てうれしかった。こういう集会の持ち方はとてもいいと思いました。
- 林田さんのお話にすごく共感しました。青年運動に確信というか、柱のようなものをつかめた気がします。ヒバクシャ署名、本当に頑張りたい！「自分の役割」について語っておられたのが印象的でした。自分も「自分にしかできない役割」を果たしたいです。
- 署名を訴える相手に全部わかってもらう必要ない。どう興味を持ってもらうかということになるほどと思いました。
- 今までにない形の学習会で新鮮な感じがしました。普段思っても口にできないことを林田さんが言ってくださったと思います。学生やあまり今まで関心のなかった方々に訴えるきっかけづくりを考えていきたいと思いました。
- いい“きっかけ”をもらった気持ちです。明日から、署名の集約のため取り組みます。林田さんのスピーチ…若いっていいですね。元気をもらえました。様々な角度で運動を追求していることに敬意を表し少しでも“マネ”していきたい。
- 本日の集会の趣旨がとてもよく分かりました。微力ですが、なにか行動していきたいと思っています。

★署名の集約を5月31日に行いますので、集めた署名用紙を届けて下さい。また、本部に届けた団体は数の報告をお願いします。